

科目名		応用測量実習			
担当教員		稲田 巧		実務授業の有無	
対象学科		環境測量科	対象学年	2	開講時期
必修・選択		必修	単位数		時間数
授業概要、目的、授業の進め方		社会に出ると応用測量作業が多くを占める。今まで学んできた基礎的な測量技術を確認しながら、より実践的な測量技術をしっかりと身に着ける。			
学習目標 (到達目標)		今まで学んできた基礎的な測量技術を確認しながら、より実践的な測量技術をしっかりと身に着ける。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		受験テキスト : 日本測量協会 公共測量作業規定の準則 他プリント、資料を配布する。			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	路線測量 線形決定 仮BM設置			1年次に学んだ水準測量のおさらいを兼ね仮BMを設置する。3級水準測量の許容誤差内に収める。	
2	河川測量 深淺測量			新川と西川の交差点付近にて、深淺測量を実施し、データをまとめる。	
3	路線測量 IP杭・中心杭の設置			IPを設置し基準点から観測をし役杭・中心杭を設置する。杭打ちをはじめとする一つ一つの作業と手順を身に着ける。安全面についても理解する。	
4	縦断測量・横断測量			鳥屋野潟スポーツ公園の側道にて縦横断測量を実施、雨天時に方眼紙を使い図化作業を行う。	
5	工事測量 やり方(丁張)の設置			盛土、切土のやり方の設置を行い、その方法を理解する。また、法勾配決める際に用いることが多い、勾配定規の使い方についても理解する。	
6	路線測量 曲線の設置			座学の応用測量で学んだ単曲線の計算方法を用い、曲線部の中心杭設置を想定し、計算および杭の設置を行う。	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	確認テスト	提出(手簿等)	課題(図面等)	土木・測量業界ともに、社会に出ると応用測量作業が多くを占めるので、確実な技術を身につけよう。	
10 %	30 %	30 %	30 %		
成績評価基準は					
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		測量会社にて測量業務24年			